

特集 知って始めるSDGs



一人の「少し」がつくる未来

2015年に始まったSDGsは、少しずつ社会に浸透し、取り組みを見聞きする機会も増えてきました。特集では、SDGsの普及を進める神奈川工科大学の学生団体の活動や市民の取り組みを紹介し、一人一人にできることを考えました。

企画政策課 ☎225-2450

あつき 元気Wave 9/1~CATVで放送

「どうしたら子どもたちがSDGsに興味を持ってもらえるかな」「ゲーム形式で楽しみなから、気付かないうちに興味を湧いたらいいよね。そんな会話を交わすのは、神奈川工科大学の学生らで作る団体「KAIT SDGs HUB」のメンバーたち。リーダーの池田優太さん(博士前期2年)をはじめ14人が、普及活動に取り組んでいます。

きっかけは好奇心

団体の活動は、昨年6月に始まりました。SDGsという言葉は1~2年前から耳にするようになったものの、内容はよく知らなかったという池田さん。きっかけは、専攻している電気電子情報工学科の小室貴紀教授との雑談でした。教授から出た「世間で話題になっているSDGsは、調べてみると奥が深そうだね」という話題。幼い頃から知らないことに強く引かれる池田さんは、SDGsを掘り下げたいと思い、教授と2人で団体を立ち上げました。小室教授は「当初は、学生と一緒にSDGsを調べてみようという気楽な気持ちで始めた」と話します。講義の中でメンバーを募集すると、学内から7人の学生が集まりました。



ワークショップでカードゲームを体験



オンライン会議で活動内容を検討



太陽光発電を取り入れている農家の活動を体験

意識が変わったゲーム

「地球環境問題以外はあまり意識していなかった。世界規模の話なので、個人ではどうしようもないことだと思っていた」。メンバーの原山昂士さん(2年)は、発足当時からそう振り返ります。初回の打ち合わせで聞いてみると、他のメンバーの多くもSDGsを特定の分野の側面で見ている状態。活動は手探りでスタートでした。

団体発足から約1カ月が過ぎた頃、池田さんたちは学外のワークショップ(WS)に参加しました。行き先は、横浜市。これからの活動の手掛かりにしよう、会議中にインターネットで見つけたのです。内容は、2030年までの目標を達成するために、お金と時間を使ってプロジェクトを遂行する、人生ゲームに似たカードゲームでした。やってみると意外に難しく、参加者同士で協力・連携しないとゴールにたどり着けません。ゲームが進むうちに池田さんは「現実には置き換えてみても同じだ」と気付き、世界には立場の違う人がいて、目標も価値観もさまざま。誰かが目標を達成できても、その結果によって別の誰かを犠牲にしてしまう

関心の輪を広げる

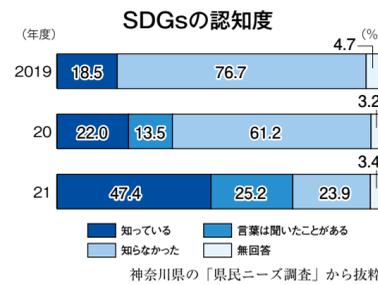
誰一人取り残さないために、多くの人が自分ごととして捉えることが必要と感じた池田さんたち。まずは学内で周知しようと、11月には、同様のWSを企画し、約30人の学生や教職員が訪れました。参加者からは「SDGsの課題ってこんなに複雑なのか」「自分のことだけ考えていては駄目、もっと広い視野で物事を見なければいけないんだ」との気付きの声も寄せられました。池田さんはWSをきっかけに、学内だけでなく、地域にも活動を広げたいと思うようになりました。

未来につなぐために

団体の立ち上げから1年が経過した今は、感染症の影響を受けながらも、日々工夫を凝らしながら活動を続けています。「SDGsを広めるためにも、続けるためにも、ただ知識を詰め込むだけではなく楽しむことが重

要だと実感した。私たちができることは何だろう」。団体は、9月のSDGsフェスティバル(左下欄参照)で、SDGsを学べるすごろくゲームを実施することを決めました。メンバーたちは「すごろくを体験した人の記憶に少しでも残るよう、分かりやすい説明を工夫したい」と意気込んでいます。

池田さんは来年4月から、就職で大学を離れます。これからも活動をつないでいくため、誰でも楽しめるオリジナルのカードゲーム作成を考えています。「30年に向け、SDGsだけでなく、自分たちの目標を立てて活動して欲しい」と話す池田さん。学生たちの活動は始まったばかり。ずっと先のゴールに向けて、楽しみながら活動が続いていきます。



SDGs普及のために 学生が地域に出張します

「KAIT SDGs HUB」と一緒に地域の児童館や学校などでSDGsを楽しく学べます。

【内容】 カードゲーム、すごろくなど

【相談先】 神奈川工科大学地域連携・貢献センター ☎291-3153・☎291-3262・✉chiiki-koken@ccml.kanagawa-it.ac.jp



すごろくゲームのリハーサルをする学生たち。左から2番目がリーダーの池田さん

豊かな生活を未来につなぐため まずは関心を持つことから

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 高木 超 特任教授 (36)

世界自然保護基金ジャパンなどによると、もし世界中の人が日本と同じ生活をしたら地球約2.8個分の資源が必要と試算されています^(※)。それほど日本人は多くの資源を使っているということです。

SDGsは、地球規模のとても大きな問題なので現実感を持ちづらいかも知れませんが、未来の世代にこの地球を引き継ぐためには、世界中で課題に取り組む必要があります。

また、個人・企業・団体などさまざまな立場の人が、達成に向けた共通の方向性を見出す必要があります。そのためには、SDGsという言葉と内容を広く共有することが最初の一步と言えるでしょう。

一人一人の取り組みは小さくても、重なり合うことで、新たな人のつながりを生み、相乗効果をもたらす可能性を秘めています。まずは関心を持ち、身近なことから始めてみてはいかがでしょうか。

(※) 出典：世界自然保護基金ジャパン「環境と向き合うまちづくり」ウェブサイトから引用

あつきSDGsフェスティバル ATSUGI SDGs FESTIVAL

入場無料

パネル展示や体験コーナーでSDGsを楽しく学びながら、理解を深めませんか。

企画政策課 ☎225-2450

日時 9月25日 10~16時 場所 あつき市民交流プラザ

内容 ■SDGsすごろく=①11時~②13時~③15時~(各回1時間) ゲーム形式でSDGsを楽しく学ぶ。

◆自転車シミュレーター、SDGsへの思いを書くデジタルメッセージボード、楽しく学べる展示・クイズラリーなど

☎電話またはEメール、ファクスに氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、希望回を書き、9月14日までに企画政策課 ☎225-2450・☎225-3732・✉1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。◆当日直接会場へ。

QRコード

詳細はこちら

私たちのSDGs

SDGsの推進は大切。でも、個人でできることは何なのでしょう。日常の身近な行動が、実はSDGsに関係のあることかもしれません。皆さんの生活や工夫、それがどんなSDGsにつながっているか考えました。

自分のできることで誰かの力に

小泉 京子さん (74・林)

5年ほど前に、不要な食品などを必要な家庭に提供する「フードバンク」が市内にあることを知りました。今では、感染症の影響で収入が減った学生などの力にもなればと思います。毎月日用品や食材などを提供しています。

日本は多くの食料を海外からの輸入に頼っています。一方、まだ食べられる食材を毎年600t捨てています。

食品ロス削減の取り組みに関すること ▶

家事は分担 これからも夫婦仲良く

小林 稜典さん (30・金田)

平日の家事は仕事の関係で妻に負担をかけてしまっています。その分、休日は洗濯や料理などの家事全般をやるようにして、負担を少しでも減らすようにしています。これからも夫婦で協力して、思いやりの心をもって生活していきたいです。

個人が能力を十分に生かせなければ、社会・経済は発展しません。男は仕事、女は家事・育児という昔からの固定観念にとらわれず、個人の選択を尊重する社会の在り方が求められています。

男女共同参画に関すること ▶

地元の食材なら安心して買える

高橋 清志さん (70)

毎週開催されている夕焼け市で、野菜や菓子を定期的に買いに来ています。地元産は食品の輸送距離も短いので環境への負荷も少なく、新鮮なものを安心して買えるのでありがたいです。

食料の輸出には、たくさんの森林・海洋資源、輸送のエネルギーなどが消費されています。地域での消費が進むことで、最小限に抑えられます。

夕焼け市に関すること ▶

清掃ボランティアでまちをきれいに

赤羽根 めぐみさん (56・田村町)

2年ほど前から、駅周辺のごみを拾うボランティアに毎週参加しています。他にも、まちのコイン「アユモ」に登録し、コインをためています。小さなことでも良いので、自分ができることに取り組み、地域の役に立ちたいと思っています。

都市に人口が集中すると、貧困やごみ問題・大気汚染問題が生じます。長期的な視点や、住民自身がまちを管理する仕組みづくりが必要です。

にぎわい美化清掃に関すること ▶

できるだけごみを出さないように

對馬 綾野さん (24・恩名)

普段出掛けるときはマイボトル・マイ箸・マイバックを持参して、割り箸やレジ袋などのごみになりそうな物はもらわないようにしています。シャンプーや食器用洗剤などは詰め替え用を選ぶようにして、容器の購入を減らしています。

世界中で、大量生産・大量廃棄が日常的に行われています。資源の枯渇やエネルギーの浪費による気候変動、環境汚染が問題になっています。

市のリサイクルに関すること ▶